

4 共同研究の推進

(1) 地域基幹農業技術体系化促進研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術	北海道北見農試 北海道上川農試 福島農試	9～13	岩手県北部山麓地帯における露地野菜を中心とした機械化畑輪作体系の確立	産地育成
新品種の導入等を基幹とした公共草地の高度利用技術	北海道根釧農試 北海道新得畜試 青森畜試	9～13	北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立	飼料生産
東北地域における環境保全型農業を基幹とした重要野菜の安定生産技術	福島農試	10～14	キャベツ根こぶ病を対象とした耕種的対策を含めた総合防除による栽培管理技術の確立	営農技術
寒冷地北部地域における超省力水稻生産技術と地域営農システム	青森農試 秋田農試 宮城農セ	11～14	寒冷地北部地域の気象条件下での水稻の直播栽培技術及び同技術を導入した地域営農システムの確立	水田作
ロングマット苗移植・不耕起乾田直播を導入した省力・低コスト生産技術	長野農総試 埼玉農試 茨城農総セ	11～14	水稻のロングマット苗移植・不耕起乾田直播技術を導入した低コスト高生産性水田営農体系を確立	生産工学
不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術	栃木農試 愛知農総試	11～15	不耕起・無中耕・無培土技術を中心とした超省力栽培体系の確立による転換畑大豆作の規模拡大	野菜畑作
中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物生産技術	青森畑園試	11～15	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立	農業経営
市場評価向上を目指した黒毛和種肥育素牛の集約放牧技術	北海道新得畜試 青森畜試 福島畜試	11～15	放牧肥育素牛の発育改善、肥育成績向上のための技術対策	外山畜産
新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感りんごの生産技術	青森りんご試 山形園試 長野果樹試	12～16	食味本位の果実を安定して省力的に生産・供給する技術の確立	果樹
寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作技術の確立	宮城古川農試 山形農試	13～17	東北部地域での立毛間播種機利用による小麦・大豆輪作技術の確立	生産工学

(2) 先端技術等地域実用化研究促進事業

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
優良種畜の安定的大量生産技術の開発	北海道新得畜試 山梨酪農試 兵庫中央農セ 広島畜技セ 島根畜試 徳島畜試 熊本農研セ	10～15	高能力牛胚の大量生産や家畜改良における世代間隔短縮のための核移植技術の開発	家畜工学
りんごわい化栽培における省力・安定生産のためのJM台木利用・早期成園化技術の開発	秋田果樹試 宮城農・園総合研 福島果樹試 長野果樹試	11～15	挿し木繁殖性に優れ、高品質果実生産が期待できるJM系わい性台木を利用した低樹高栽培法の確立	果樹
寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立	山形得園試 福島農試 鳥取園試	12～16	寒冷地に適した露地向け花き品目である枝物花木類の栽培技術の確立	花き
大区画水田における低コスト・効果的暗渠排水による汎用化技術の確立	千葉農試 茨城農業総合セ 埼玉農試	12～14	北東北地方における汎用化水田のための簡易で効果的な暗渠排水技術の確立	生産工学

(3) 21世紀型農業経営モデル実証試験

課 題 名	振興局 (市町村名)	研 究 期 間	実 証 研 究 課 題	担 当 研 究 室
畑地かんがい地域における野菜、花き等の高収益モデル実証	盛岡 (岩手町)	13～15	(1)有機質資源の活用指針の作成 (2)効率の高い稲作・転作営農技術の確立 (3)土壌水分予測に基づく効率的かん水技術の開発	営農技術
水田を活用した持続的作付体系及び優良種苗の安定確保によるサトイモ産地強化の実証	北上 (北上市)	13～15	(1)根腐病対策を中心とした水田活用による持続型作付体系の実証 (2)優良種苗の現地選抜	野菜畑作 応用生物 病理昆虫
大規模ほ場整備地区におけるほ場畦畔の雑草抑制と景観形成技術確立	水沢 (胆沢町)	13～15	(1)町委託事業への参画による有望 GCP の検討 (2)有望 GCP の増殖管理技術の検討	水田作 生産工学
水田地帯における園芸生産の高度・安定化「いちご栽培における省力技術の導入による高度生産化」	一関 (花泉町)	13～15	(1)新品種導入に際する技術支援 (2)短日処理技術実証に係る技術支援 (3)導入技術に対する経営モデル確立	南部園芸
東磐井地区における園芸省力安定生産モデル経営の実証	千厩 (大東町)	13～15	(1)トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証確立	南部園芸
ほ場整備地区における園芸団地形成に向けた農業経営の確立	大船渡 (陸前高田市)	13～15	(1)農業経営モデルの分析・評価	農業経営
雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大	遠野 (遠野市)	13～15	(1)ほうれんそう大型経営の栽培技術実証	野菜畑作 産地育成
沿岸中山間地域における花き周年生産モデルの確立	宮古 (宮古市)	13～15	(1)トルコギキョウの良品生産技術の指導 (2)スプレーグクの日長管理技術の指導 (3)チューリップの良品生産技術の指導 (4)良品生産に向けた病害虫防除体系の確立 (5)花き周年栽培モデル体系の確立	花き 病理昆虫
大規模畑作における輪作を基本とした園芸作物の普代型安定生産技術体系の確立	久慈 (普代村)	13～15	(1)野菜・緑肥を中心とした輪作体系の確立 (2)灌漑施設を利用した野菜安定栽培技術の確立 (3)新規開発畑における土壌管理・輪作マニュアルの策定 (4)経営感覚に優れた主業型農家の育成	やませ利用 農業経営 営農技術
県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立実証	二戸 (一戸町)	12～14	(1)秋だしパンジー栽培技術の確立 (2)花壇苗周年生産技術の確立 (3)花き栽培施設を有効活用した山菜促成栽培の実証	産地育成

(4) 岩手県生物工学研究所との共同研究

課 題 名	担当研究室
いもち病抵抗性関連遺伝子を導入した水稲の耐病性評価	応用生物工学
DNA マーカーを用いた水稲特性検定法の確立	水稲育種 応用生物工学
りんどう病原ウイルス (CMV 等) の検出・診断技術の利用	応用生物工学
トマト黄化えそウイルス (TSWV) の検出・診断技術の確立及び利用	病理昆虫
耐病性関連遺伝子を導入したりんごの系状菌病抵抗性評価	応用生物工学
リンゴ根頭がんしゅ病菌の検出・診断技術の確立と利用	病理昆虫 応用生物工学
ピーマン病原ウイルス (PMMV) の検出・診断技術及び系統解析技術の利用	応用生物工学
ナス科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用	応用生物工学

(5) 大学との共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
雑穀の食品機能及び遺伝子解析研究と地域連携食品開発	岩手大学	11～13	雑穀(キビ、アワ、ヒエ等)の脂質代謝改善機能成分等の探索、遺伝子解析による品種識別法の解明、省力栽培技術の確立並びに地元食品企業と連携した新加工食品の開発研究について調査検討する。	やませ利用
カイコ及び野蚕からの新規機能性物質の利用開発	岩手大学	12～15	カイコの抗カビ性物質や天蚕の休眠制御物質、天蚕フィブロインからの化粧水等の新機能性物質と関連化合物を農業生産場面で効率的に利用する方法と医療場面で有効に活用する方法を開発する。	病理昆虫

(6) A F R 研究会

名 称	構 成	研究期間	担当研究室
花卉育種研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	花き
昆虫機能利用研究会	岩手大学農学部、農業研究センター、岩手医大、生物工学研究所	10～	病理昆虫
植物育種研究会	岩手大学農学部、教育学部、生物工学研究所、東北農業研究センター、農業研究センター	10～	水稻育種
農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	病理昆虫
機能性食品研究会 A	岩手大学農学部、工業技術センター、東北農業研究センター、農業研究センター、二戸農業、浄法寺農業、カナン牧場、(株)ミッシェル、花巻起業化支援センター	10～	やませ利用
機能性食品研究会 B	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター、黒川食品(株)、花巻起業化支援センター	10～	野菜畑作
農作業システム自動化研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	生産工学
水稻栽培研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	水田作
果樹栽培研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	果樹
リンドウ研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、農業研究センター、安代町花き開発センター	11～	応用生物工学
植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、農研センター、生物工学研究所	12～	水稻育種 水田作
雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、農研センター	12～	病理昆虫 営農技術
有機質資源循環利用研究会	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター	12～	飼料生産 土壌作物栄養
始原生殖細胞 (PGCs) 利用研究会	岩手大学農学部、農研センター、小岩井農牧	13～	家畜育種

(7) その他の共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
野菜の内部品質向上対策のための品質評価に関する研究	岩手県経済農業協同組合連合会	13～15	(1) 野菜の内部品質評価のための簡易分析法開発及び成分変動要因の解析 (2) 化学分析による成分評価及び県産野菜の成分実態調査	保鮮流通技術